

狛江市下水道総合計画策定庁内検討委員会

- **日時** 平成 21 年 6 月 19 日（金） AM10：00～ 11：45
 - **場所** 小田急線高架下 101 会議室
 - **委員** 石原委員長（上下水道課長）、山田副委員長（都市整備課長）、高橋委員（財政課長）、斎藤委員（環境管理課長）、松本委員（安心安全課長）
 - **議題** (1) 委員会とスケジュール
(2) アンケート調査結果について
(3) 素案（たたき台）について
 - **資料** (1) 議事次第
(2) 庁内検討委員会のスケジュール案
(3) アンケート結果
(4) 狛江市下水道総合計画（第五次素案）
-

事務局より開会のあいさつがあり、石原委員長の進行により議事が進行された。

議題 (1) 委員会と今後のスケジュール

事務局より、次の説明があった。

皆さんからいただいた意見をもとに資料を改正し、6 月 30 日に市民説明会用資料の庁議報告を予定している。市民説明会は 7 月 3、5 日に行う。今後、下水道の委員会は 7 月、9 月、10 月、12 月の 4 回開催する。前回は最終の答申を 2 月としていたが、それを 12 月に実質審議と変更し、委員長のみで 2 月に答申してもらおう。この委員会では、下水道事業の再評価も合わせて審議を行う。

また、下水道の総合計画に関する説明会について、7 月 3、5 日に行うお知らせを広報掲示しており、合わせて市民委員の募集をかけている。この総合計画とあわせて、下水道事業の再評価の委員としてお願いしたいと考えている。

以上の進め方、スケジュールについて合意を得た。

議題 (2) アンケート調査結果

事務局より、次の説明があった。

6 月 6 日に実施した環境月間でのアンケート調査は、回答が 36 名あった。内訳は男性 9 名、女性 26 名、不明 1 名であり、年齢層は 70 歳代 40%と多く、60 歳代以上と続く。地区として

は和泉本町が 11%と一番多いが、ほぼ市内全域の方の意見が収集できたと思われる。

1 つめの質問の「希望する下水道事業」に対しては、「これからも安心して下水道を利用し続ける為の事業」が最重要とする回答が多い。2 つめの質問の「下水道事業のあり方」に対しては、「多少負担が増えても今必要な事業を行うべき」が、全体の 4 分の 3 を占める。3 つめの質問の「下水道に対する要望」に対しては、「下水道事業に関する情報をもっと流してほしい」、「市民でもできることを教えてほしい」が多いことから、市民は下水道について知らないことが多く、情報を求めている傾向がみられる。

総括として、①今回回答された方は比較的高齢者が多く、今後は男性のほか、20～40 才代の年齢層の意見を把握していくことが望ましい。②下水道事業に対して市民の期待が高い傾向にあるため、積極的な情報発信が求められる。③下水道事業の必要性を市民に周知してもらうことで、市民の費用負担も踏まえた事業の推進も可能であるが、そのためには対策とその内容を明確に提示することが重要と考えられる。

以上のまとめ方と意見を計画に反映させることについて合意を得た。

議題 (3) 第五次素案について

事務局より、次の説明があった。

前回の委員会において、各委員より示された意見を踏まえ財政シミュレーションを見直した。前回のシミュレーションにおいては、財政面のみでなく人員面でもかなりの負担があるのではないかとということで、できるだけ現実を踏まえた内容とした。

地震対策に対しては年 2 億円程度で、中期・長期ともに前回提示より 1/10 として、対策量を年 0.5km とした。緊急対策事業（浸水および地震）が平成 25 年までであり、財源としては補助金も含めて賄う予定であることから、平成 25 年まではできるだけ、既存の計画に沿った方針で進めていきたい。補助事業以外は、市費や起債により対応を図る。起債の返済は、据え置き 5 年のあと 25 年間で均等返済とした。

このような条件でシミュレーションを行った結果、使用料改定案を考えた。使用料改定は、前回は平成 14 年に行っており、今後 10 年程度に 1 回の使用料改定を想定した。

以上に対する主な質疑応答は、次のとおりである。

<財政シミュレーション>

委員：市の下水道料金は他都市と比べ高いのか。

事務局：現状の中で狛江の下水道はあまり高くない。将来の改定をプラス 7%、114 円とするのは東京都より抑えられているが、使用量によって単価が変わるので、一概の比較はできない。しかし、現状から見れば 7%アップは可能な範囲であると考えている。

委員：この単価は何 m³ までの単価か。

事務局：これは全体の処理水量で割っているの、具体的に何 m³ の使用者がこの値段というわけではない。

委員：値上げ幅を比較できるものがあれば市民が受けるイメージも大分違うと思う。例えば他市と比べることはできるのか。

事務局：現状の比較を行うことは可能である。

委員：シミュレーションというのは下水道使用料だけが変わっているのか。

事務局：基本ケースと使用料改定案というのは、使用料を改定するかしないかを変えただけである。短期計画の中に大規模な事業が集中しているが、それは補助金を考えている事業のため、先に延ばせないというのは厳しい部分である。

委員：21年度の数字は今年度予算か。今年度、資本的収支の建設改良費が9億8000円とあるが、こんなにできるのか。

事務局：21年度以降の建設改良費は、それぞれの個別計画の値を組み込んでいるため、現実と乖離しているところはある。20年度の決算が出た段階で改めて修正する予定であり、内容について精度を高めて行きたいと考えている。

委員長：使用料を改定するというところで、シミュレーションをしているが、市民説明会において説明する内容としては、どのような程度がよいか。

委員：前提条件が大事となるが、あくまでここで今計画したことをそのままやるとこれだけ赤字になってしまう、例えば、こういう形であれば現状はこうであるというレベルでの説明であれば良いと思う。しかし、使用料を改定しないで、この対策をもう少し遅らせても良いのではという話になれば、今後調整すればよい。どちらにせよ、もっと精度をあげていく必要がある。

<事業計画>

委員：例えば、短期計画にある雨水管渠5kmの新設は本当にできるのか。道路計画等も5kmというのは無いし、それに合わせて進めるといふのであれば、具体的な箇所があるのか。短期計画であれば、具体の場所を決めて積み上げるほうが良い。また、人員の問題も含め、目標を大きくしてしまうと、あとで問題が生じてしまうことになる。

事務局：実際の道路整備を待っていると、とんでもなく先の話になってくるので、雨水整備率がいつになっても上がってこない。年に1kmというのは単独でもやっていくということではないと無理とは思ふ。いずれにせよ、雨水整備を含めて現状の体制では、短期計画の事業をやりくりするのは困難であり、臨時的に増員するか、外部に委託することでの対応を考えている。

委員：下水道整備だけ進めるといふことはできないのか。

事務局：舗装の復旧などが生じるため、道路整備計画と連携することで効率的になる。下水管だけを入れて排水設備が整っていないと、放流先はできたが放流する施設がないという状態になる。現状で雨水管が入っていない地域では、下水道整備により放流先ができることで水たまりの苦情をある程度解消することができると考えられる。

委員：雨水管渠の整備は、現況で30km整備され、残り34%未整備があるということか。

事務局：現況で30km整備されているということである。

委員：整備計画ごとの雨水整備率や延長は整合しているか。

事務局：数字の不整合があるようなので確認する。

<市民説明会での説明内容>

委員：市民説明会では、具体的内容は説明するか。市民の中には雨水貯留の話を行っている人が

いるため、‘貯留施設を短期計画に入れている’と回答すれば配慮していると思ってくれると思う。

事務局：合流改善計画の中で、浸透ますや貯留施設の設置も含んでいる。今後は野川流域の合流対策計画が策定されることになる模様で、そうなるとう狛江市への貯留や浸透施設の設置目標値が設定されることから、それについても対応していかなければならない。ただし、貯留・浸透施設の設置というのは、各施設管理者にも協力して進めることになるので、道路の部分は道路管理者、学校は学校管理者などとの協議になると思われる。各管理者の足並みが揃うかどうかは調整が厳しいところもある。

<費用負担>

委員：下水道の処理費用に関するデータはあるか。

事務局：基本的には流域への支払い割合が決まっている。流域下水道（東京都）から請求が来るが、水道のメーターで算定したものに対して、雨水の分を上乗せして料金算定根拠にしている。

委員：下水道使用料というのは、汚水を処理するためにもらっているという前提であり、雨水対策は、住民全体のためだから税金で賄うというのが原則である。一般会計が雨水対策のためのものであることを説明する必要がある。また、雨水対策を行うと一般会計の繰り出しがあまり減らないシミュレーションになると思う。

事務局：ここでの使用料総額は、将来の人口減少を考慮したものである。シミュレーションデータについては、改めて検証する。

委員：浸水対策をすることで雨水が下水に流れないとすると、処理負担金が減り、使用料を上げる必要はないという話にならないか。

事務局：汚水と雨水を一緒に処理する合流区域では、雨が降ると、一定量以上の下水を雨水吐から野川に放流しており、処理場に流入する下水量は、現状とあまり変わらないと考えられる。ただし、合流下水貯留施設などを建設して、貯留した下水を晴天時に処理場に流入することになれば、逆に処理水量が増えるという可能性はある。

委員長：今後は、シミュレーションを再検証してその精度を高めること、雨水管渠の整備計画値を再度チェックすることを行っていく。今回出された意見を参考に、内容をチェック修正して市民説明会で説明する。今後も、この計画に対していろいろな意見をいただき、最終的に検討委員会のなかで確認していく予定である。

議題（４）その他

事務局より、次の説明があった。

- 次回委員会は、7月13～17日に行う予定で調整する。

以上